

第7号様式（第14条関係）

平成30年5月9日

伊勢原市協働事業完了報告書

伊勢原市長 殿

住所

団体名 第7期いせはら観光ガイド養成講座

実行委員会

代表者名 実行委員長 三上 利栄

平成29年6月28日付で協働事業採択決定通知を受けた事業が完了したので、伊勢原市市民協働事業提案制度実施要綱第14条の規定により、関係書類を添えて次の通り報告します。

1. 協働事業名

協働事業名	いせはら観光ガイド養成講座
事業費総額	320,905 円
事業期間	自平成29年4月1日より平成30年3月31日まで
実施場所	講座は主として伊勢原市内の中央公民館、シテイプラザ会議室、大山インフォメーションセンター、三之宮神社、日向薬師、道灌遺跡などで行った。
参加者人数	受講修了生は43人、延べ講座参加者数は36回、478人。（外国語講座は延べ18回、257人、観光講座は18回、221人でした。）昨年を大きく上回りました。（昨年は延べ26回368人。）
事業実施内容及びその成果	詳細は資料や別紙報告書の通りです。かつてなく受講生も多く、修了者も多く、実りある講座となりました。一般観光講座は、市内を4拠点に分け（大山、日向薬師、比々多神社、太田道灌コースを中心）て実施しました。その結果、伊勢原の自然の良さ、史跡の多さを実感して自信となりました。 外国語ガイド講座は、4大拠点のほか、英会話の実践的に実地、現地など実際に見て英会話で案内できるように推進しました。例として、自己紹介、駅前での案内を想定した講座、伊勢原警察署の東京オリンピックを想定して実践英会話例も手に入れたの講座、小田城や吉川醸造の実践案内など好評でした。 外国語団団体との交流、外人との英会話の実践も計画はしましたが実際は実施できなかったことは次回に改善したい。

市民活動支援助成金事業報告書

平成 30 年 5 月 9 日

事業名	いせはら観光ガイド養成講座
実施期間	平成 29 年 4 月 1 日から平成 30 年 3 月 31 日まで
実施場所	伊勢原市内を中心として、中央公民館、シテイプラザなどの会議室を使用、実地場所としてインフォメーションセンター、小田原城、吉川醸造などで行った。
実施内容	市民協働事業として、市の指導を得て観ガイドのレベルアップと後継者育成を意図し、少なくとも伊勢原のメインのところはミにつける点に重点を置いて行った。外国語講座は外国人案内対策として講座を行ない大山インフォメーションセンターなどでの実地研修も行った。
おところ	今年は受講生に新人が多かったのが特徴でした。修了生は 43 人、(外国語 18 人、観光ガイド 25 人)。女性は両講座ともに 9 人。 観光ガイドは伊勢原の 4 大拠点を中心に現地を歩いて実際に学びました。外国語ガイドは英会話を中心として自己紹介の仕方、駅前での案内、小田原城内、吉川醸造の実地講座と見学など行った。大山インフォメーションセンターの実地見学、インフォメーションセンターで活動している K S G G のメンバーによる活動についても講座で学びました。実際に現地で外国語案内のできる水準者も育ててきたところである。
助成金の交付状況	別紙決算書による。
今後の課題と取り組み	今回の講座を総括してみても、今までで一番多い受講生と修了生を輩出した。この教訓に学んで今後活かすこととする。 ・受講生をもっと増やしていきたいこと。 ・講座計画と講師を多彩にしたいこと。 ・外国語団体、外人との実際英会話を計画し実行する。 ・女性受講生と現役労働者の参加を増やしたい。 ・日時、場所、講師の確保に格別の努力を払うようにする。
添付書類	・完了報告書 ・ニュース ・チラシ ・修了者名簿など。

第3号様式（第6条）関係

協働事業決算書

平成30年5月9日

協働事業名	第7期いせはら観光ガイド養成講座
団体名	第7期いせはら観光ガイド養成講座実行委員会

収入の部

区 分	決 算 額	摘 要
受講料	156,000 円	受講生 51 人＝153,000 円、単科生 10 人＝3000 円。
市への援助金	160,000 円	市からの援助金。
雑収入	5,068 円	。
計	321,068 円	

支出の部

	決 算 額	摘 要
講師料費	137,000 円	各回の講師料
会場費	20,120 円	講座会場費代。
交通費	24,150 円	車代など。
通信費	18,760 円	切手、葉書代など
消耗品費	93,978 円	インク、紙代、封筒代など。
その他事務所費	27,060 円	新聞折り込み代、チラシ印刷代、保険料など
計	321,068 円	

第7期いせはら観光ガイド養成講座修了者名簿

平成30年2月10日

NO	観光ガイド修了生名簿		外国語ガイド講座修了者名簿		
	1 年期	2 年期・ 認定証	1 年期	2 年期・ 認定証	3 年期・ 専修課程
1	倉持好男	佐藤克彦	振原千夏子	後藤佐代子	渡部桂子
2	佐藤茂行	今井滋	松原敏子	林美喜男	山本喜美子
3	仲丸克生	加藤利子	矢野直樹	小川千鶴子	西部周子
4	松原敏子	加藤夏夫	山田泰夫		上野幸男
5	大木洋昭	鈴木輝夫	大木洋昭		川中彰
6	南里優子	大矢千津子	天野準子		鳥海政男
7	長久保ちや子	及川勢子	南里優子		三上利栄
8	薦、本明	松本悦子	宇井和男		
9	鳥海増雄	山口靖之			
10	那須憲三				
11	森内文之				
12	菅原信夫				
13	山本陽				
14	川中彰				
15	山本喜美子				
16	三上利栄				
小計	16 人	9 人	8 人	3 人	7 人
合計	25 人		18 人 (合計 43 人)		

第7期いせはら観光ガイド養成講座結果の報告（2観光ガイド講座関係）

平成30年2月15日

回数	実施日	講座名	講座出席数・観光ガイド講座	備 考
1	7月22日	補講・道灌の集い見学	19人	見学
2	8月9日	補講・バーベキュー	12人	実地見学
3	8月26日	補講・市の広報戦略	17人	講師広報戦略課
4	9月2日	講座・入講式	24人	
5	9月30日	講座・彼岸花コース	14人	講師山口靖之さん
6	10月14日	講座・太田道灌講座	10人	講師梶田紀子さん
7	11月4日	講座・三之宮古墳講座	13人	講師委会滋さん
8	11月15日	補講・かながわガイド研修会	12人	見学
9	11月25日	講座・大山紅葉	14人	現地見学
10	12月9日	講座・大山歴史	16人	講師斎藤進教授
11	12月9日	講座・大山の観光	16人	講師斎藤進教授
12	12月13日	補講・観ボラ忘年会参加	14人	参加
13	1月13日	補講・伊勢原本町講座	20人	講師田中米昭さん
14	1月13日	講座・三ノ宮吉川醸造見学	7人	講師梶田紀子さん
15	1月20日	補講・いきいきシニア祭り	18人	見学
16	1月27日	講座・KSGGお活動学ぶ	3人	講師大沢憲生さん
17	1月28日	講座・生涯学習を学ぶ	10人	講師逢坂伸一先生
18	2月7日	講座・修了式、記念講演	18人	講師鍛冶栄一さん
	合 計		257人	

第7期いせはら観光ガイド養成講座結果の報告 (1.外国語関係)

平成30年5月9日

回数	実施日	講座名	講座出席 数・外国語	備考
1	7月22日	補講・道灌の集い見学	9人	
2	8月9日	補講・バーベキュー	5人	
3	8月26日	補講・市の広報戦略	13人	講師広報戦略課
4	9月2日	講座・入講式	15人	
5	9月16日	講座・自己紹介	13人	講師梶田紀子さん
6	10月7日	講座・大山インフォメーションセンター案内業務実地見学	16人	講師梶田紀子さん
7	10月14日	講座・道灌あるかると	9人	講師文化財課
8	10月21日	講座・小田原城実地見学	12人	講師石井久恵講師 小田原ガイド
9	11月15日	補講・ガイド研修会参加	8人	講師石井久恵さん
10	11月19日	講座・伊勢原警察署用とテキスト	15人	講師梶田紀子さん
11	12月2日	講座・テキスト	15人	講師石井久恵さん
12	12月9日	講座・大山の歴史	12人	講師斎藤進教授
13	12月13日	補講・観ボラ忘年会参加	5人	
14	1月13日	研修・吉川醸造実地見学	13人	講師梶田紀子さん
15	1月20日	補講・いきいき祭り見学	8人	
16	1月27日	講座・KSGG学ぶ	15人	講師大沢憲生さん
17	1月28日	補講・生涯学習を学ぶ	10人	講師逢坂伸一先生
18	2月7日	講座・修了式	15人	講師鍛冶栄一さん
	合計		221人	

第7期いせはら観光ガイド養成講座終了にあたっての報告書

平成30年2月28日

第7期いせはら観光ガイド養成講座

実行委員会 実行委員長 三上利栄

はじめに

第7期いせはら観光ガイド養成講座は昨年7月22日に開講し、今年2月10日修了式を挙行。8ヵ月間の講座を終了しました。

市民協働事業として協働しつつご指導ご援助いただきましたことに対しまして厚く御礼を申し上げます。

ここに、報告書を提出し、追加資料としてこの報告を致しますのでよろしくお願いいたします。

1. 報告書について

- (1) 市様式の報告書
- (2) 実行委員会報告書と資料（別紙資料含む）

2. 主な経過と結果の特徴

- (1) 今回は新しい受講生を朝日新聞に講座チラシを折り込んで宣伝し募集しました。この結果新しい応募者が多かったのが特徴です。やはり、広く知らせる宣伝は重要だという教訓です。
- (2) 一般観光ガイド&サポート講座と外国語講座の2課程を実施しました。実施にあたり期日、会場、講師、受講生への徹底など大変な実務となり煩雑さがありました。
- (3) 受講生と修了生の数は観光ガイドが29人、修了生は25人、また、外国22人修了生は18人であり、計43人の修了生を得ました。これで7年間では延べ270人の修了者となりました。外国語講座も英会話で大山インフォメーションセンターでの案内業務の現地研修も行い展望も出てきました。
- (4) アンケートにみる結果は別紙の通りです。
 - ①集計は26人。主な点では、
 - ②講座よかった 12人、まあまあだ 6人、期待はずれが1人。
 - ③次期講座受講しますか 14人、検討中6人、友達誘いたい 3人。
 - ④改善点は、 講座計画4人、担当絞って 4人、講義内容 2人、外人と話す機会を欲しい 9人。

2. 教訓と課題

講座の必要性和重要性は高まる

伊勢原市観光協会と観ボラの業務提携で協定して大山インフォメーションセンターで外国人案内の業務を分担していますが、年間集計では稼働日数 46 日、外国人案内は 849 人でしたので、外国語ガイドの必要性は高まっています。一般観光ガイドも大山の日本遺産、日向薬師の修理、太田道灌の大河ドラマの挑戦で需要は増えています。

教訓について

- (1) 広く宣伝した甲斐があり新人の受講生が広がり成果でありました。
- (2) 外国語講座 3 年目ですが、慣れてきている側面もあり一定の人数は案内業務への参加を望むほどの水準がみられます。新聞折り込みで参加した新人の中には一定の水準に達した受講生がおり期待を広げてくれました。(新人は観光ガイドに 8 人、外国語の 7 人。)
- (3) 市との担当部門の協力で市の方針や目標と計画も明確になり市民協働事業の成果が明確に表れています。
- (4) アンケートの内容はいずれも重要指摘であり、次期検討して改善実施します。

課題について

- (1) 新受講生を増やすためには広く宣伝が必要です。対象者はいっぱいいるのですが、宣伝(新聞折り込み)などには経費がかさむことです。(新聞折り込みは 1 部 3 円 50 銭、チラシ作成も一枚 3 円 50 銭。)。市民協働事業として市広報への連続掲載などの要望もありました。
- ① 会場の確保について～日時、講師、場所の 3 点セットですんなりといきません。このことが不定期なると受講生にしわ寄せとなり迷惑がかかるので事前準備、段取りが必要です。
- ② 講師の確保について～多彩に配置したいのですが都合が合わずに困難性があります。
- ③ 講座新聞の不定期発行で受講生に迷惑がかかりました、ダイレクトメールで間に合わせましたが、受講生は当初の計画で予定を立てており不都合があり、改善が必要です。
- ④ 実行委員会内の業務分担をさらに明確にしていきたい。
- ⑤ 課題と問題点は細大漏らさずに鋭意改善に努力します。

おわりに

観光立国、外国人の訪日が増えているおり、この講座の重要性は増えています。市民サイドで「おもてなし」「知的水準の向上」をめざしてさらに鋭意精進をすることとします。

「第7期いせはら観光ガイド養成講座」 事業評価シート

段階	評価項目
準備段階	1. 協働が開始された段階はいつからか ☒企画の段階から ☐実施段階から ☐その他（ ） 2. 協働の呼びかけはどちらからか ☒市民活動団体 ☐市 ☐その他（ ） 3. 協働で行う意義は明確だったか ☒はい ☐いいえ 意義〔本市の観光施策に資する人材の育成により、観光振興の発展に大きく寄与する。〕 4. 事業の目的は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目的〔本市における観光ガイドを養成する。養成に当たっては、インバウンド対策に向けた外国語対応の実現を図る。〕 5. 事業の目標（何がどのような状態になることを意図しているか）は明確だったか ☒はい ☐いいえ 目標〔いせはら観光ガイドの養成に伴い、受講生15人を目標とする。〕 6. 相互理解は十分だったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕
実施段階	7. 協定書作成にあたって十分協議したか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 8. 事業運営上の役割分担は適切だったか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 9. 進捗状況や情報を共有できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 10. 実施プロセスの記録は残せたか ☒はい ☐いいえ 理由〔観光ガイド養成講座新聞を作成・発行し、講座内容などの実施記録に努めた。〕 11. 互いの特性を活かすことができたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕
終了後の段階	12. 事業内容の報告を作り、公開できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔 〕 13. 目的・目標は達成できたか ☒はい ☐いいえ 理由〔外国語講座、一般ガイド講座で合わせて43人が修了し、外国語対応が可能な観光ガイドが養成された。〕 14. 今後の課題と改善策を話し合ったか ☒はい ☐いいえ 理由〔受講生を広く募集する。外国語講座について、実践的な講座を行い、内容を充実させることで受講生を増やしていく。〕 15. 総合的に見て事業に対する満足度は 【 ⑤ 4 3 2 1 】 理由〔国際観光地を目指す本市の観光施策に対し十分に貢献している。〕 16. その他、気づいた点